

～親子でいちご・水稲経営と地域の活性化に取り組む～ 一色 雅典、健太郎さん親子（西条市）

農業指導士

雅典さん：1956年生まれ 健太郎さん：1982年生まれ



☆経営概況☆

施設いちご（約 4,000 m²）と水稲（約4ha）を親子で経営し、雅典さんは農業指導士としても活動しています（パート2人）。

☆ここがポイント☆

■雅典さんはいちご一筋に36年

雅典さんは、21歳で就農、父親の養鶏業に替えていちご経営を開始しました。いちごは、父の薦めもあり周囲に仲間が多かったこともあって選びましたが、雅典さんにとって当時も今も、生産技術や収益面でおもしろくて奥の深さにひかれる、作り甲斐がある農産物です。

■健太郎さんが企業を退職して就農

健太郎さんは、祖父のリタイヤを機に約7年勤務した県外アパレル企業を退職して父雅典さんの農業を手伝っていましたが、現在は、雅典さんがいちご、健太郎さんが水稲を経営しています。

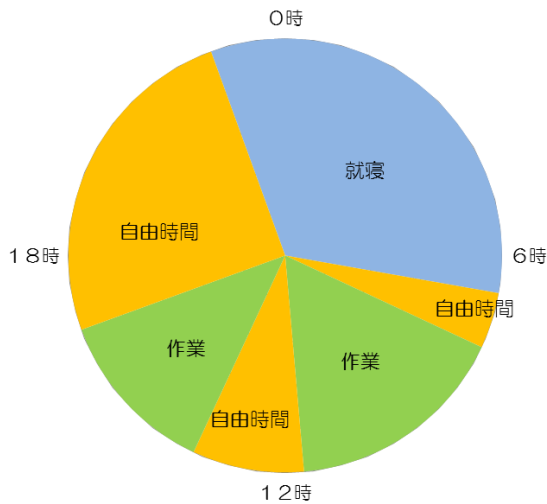


視察対応する雅典さん



高設栽培のいちご

【一日のライフスタイル（一例）】



【普段の生活について】

雅典さんは、妻典子さんと息子健太郎さんと楽しく農業をしています。

健太郎さんは、夏・秋季にフットサルを楽しんでいます。また、アパレル関係企業の就業経験から洋裁ができるため、時々自分のシャツを仕立っています。

【一週間のライフスタイル（一例）】

月	火	水	木	金	土	日	
【繁忙期】	いちごの栽培管理・収穫調整等				出荷が無く やや余裕有り	いちごの栽培管理・収穫調整等	
【普通期】			不定期で月1日休日 いちご・水稻の栽培管理等				



シャツを仕立っている健太郎さん



完成した洋服

☆これからの夢や目指すもの☆

個人の農業経営と地域の活性化、暮らしと産業（家計と事業）の両立を目指します。将来、水稻は集落営農法人で運営し、いちごは息子と経営を統合して規模拡大し、安定収入が得られるように努めます。

健太郎さんは、農業経営者として先輩に認められ、子供やこれから農業をする人からはあこがれの存在となるのが目標です。

☆メッセージ☆

作業は時間をこなせば終わるが、この中で何をやるかは自分のやり方次第で、真価が問われると思います。

農業を志向する方は、人・技術・作物との出会いを大切にしてください。